

ファルコバイオシステムズ(コード 4671 東証・大証 1部)

業績推移(連結)(10.3は6ヵ月11日の変則決算。予想数値は会社発表分。配当性向は連結ベース。単位・百万円、%、円)

決算期	売上高		経常		一株当たり		配当性向	売上高 経常利益率
		伸び率	利益	伸び率	純利益	配当		
08.9	37,461	+6.7	853	-36.3	9.5	20.0	211.2	2.3
09.9	39,458	+5.3	1,561	+83.0	51.6	20.0	38.8	4.0
10.3(予)	20,000	-	600	-	12.6	10.0	79.4	3.0

臨床検査受託の大手、顧客数で業界屈指

特色...血液検査など臨床検査受託業の大手。関東、東海・北陸から九州・沖縄までの各都府県を営業エリアに、取引顧客は医療機関約18,000施設、企業約1,500社で国内屈指。京都府久御山町の総合研究所を中核ラボに、6カ所の基幹ラボ、25カ所の地域ラボ、62カ所の営業所、約900台の営業集配車を擁し、きめ細かい検査受託体制を構築。地方の臨床検査会社や調剤薬局のM&A(企業の買収・合併)などで規模を拡大している。

09年9月期は大幅経常増益に

臨床検査事業での増収効果などで大幅増益...09年9月期は、売上高が08年9月期比5.3%増となり、経常利益は同83%増と大きく伸長。主力の臨床検査事業の売上増などが利益回復に結びつき、大幅増益となった。セグメント別売上高は、臨床検査事業および周辺事業:265億1,100万円(08年9月期比2.7%増) 調剤薬局事業:129億4,700万円(同11.3%増)。臨床検査事業および周辺事業において、臨床検査事業では、ヒト遺伝子検査、治験検査とも受託検体数が増加。中でもアレルギー検査の増加などにより、連結臨床検査検体数は同2.8%増となった。また、調剤薬局事業では店舗のスクラップアンドビルドを推進し、開局5店、閉局1店を実施した結果、09年9月期末の店舗数は82店(FCの4店を含む)となった。費用面では、減価償却費は62.8%増となったものの運送費(43.2%減)や賃借料(35.7%減)などの大幅な減少によって、販売費および一般管理費が同0.7%増にとどまり、増収効果も加わって、売上高営業利益率は4.4%(08年9月期:2.7%)に、売上高経常利益率も4%(同:2.3%)にそれぞれ上昇した。

10年3月期は実質増収増益へ

今期は6ヵ月11日変則決算...10年3月期は決算期変更(9月3月)のため6ヵ月11日間の変則決算となるが、09年9月期の第2四半期(08年9月~09年3月。売上高189億6,800万円、経常利益5億7,500万円)との単純比較では増収増益となりそう。セグメント別売上高予想は、臨床検査事業および周辺事業:129億2,000万円(09年9月期第2四半期126億8,500万円) 調剤薬局事業:70億8,000万円(同62億8,200万円)。臨床検査事業および周辺事業では、診療所向け電子カルテ「@home Dr.」(アットホームドクター)の拡販を図るほか、遺伝子事業では、ヒト遺伝子検査について引き続き全国展開を進めることで、遺伝カウンセリング体制を持つ施設を中心に遺伝子検査実施契約先を30施設に増やす方向。また、調剤薬局事業では5店の新規出店を計画しており、前9月期中に出店した店舗の通期貢献も売上高の増加に寄与しそう。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。